

❖ LCC News Letter 20

同志社校友会大阪支部産官学部会

11 November 2011 (文責：北出 至)

LCC 設立六周年記念講演会

去る11月6日(日) LCC 設立6周年記念講演に相応しいお二人の講師をお招きしました。はじめに、同志社ビジネススクールの村山裕三教授が「経済安全保障から考える東日本大震災」と題して、同志社大学室町キャンパス寒梅館203教室で基調講演を行いました。

ご講演の中で特に興味を惹いたのは、「1000年に1回と想定されるような今後の大震災に、我々はいかに対応すべきか」でした。教授の結論は「人の教育」です。

技術的にハイレベルの防波堤建設などのご提案を私は予想したのですが、意外にも村山教授は、釜石市の津波防災教育を8年前から行っている群馬大学の片田教授について話されました。

東日本大震災で、釜石市の小学生1927人、中学生999人のうち、津波襲来時に学校の管理化にあった児童・生徒は全員の無事が確認され「釜石の奇跡」と呼ばれていますが、片田教授は、「10年たてば大人になる、更に、10年たてば親になる」子どもを中心に、避難の3原則(1)「想定にとられるな」ーハザードマップ(災害予測図)ーを信じるな(2)「いかなる場合でもベストを尽くせ」(3)「率先避難者たれ」と、防災教育は知識ではなく、「自然に向き合う姿勢を身につける教育であるべき」として、地域の災害文化として根付かせ、世代間で継承させる努力を地道にされてきました。

この片田教授の考え方と行動を村山教授は「経済安全保障」の観点からも高く評価され、実効性、コスト面などを考慮すると、将来の大災害に備えての賢明な対応策の一つであると説かれました。



群馬大学片田敏孝教授

続いて韓国の李容淑女史が、最近、出版された『さくらとキムチ』と同じタイトルで「日韓文化比較論」を語られました。一例が日本酒です。“唎き酒師”の資格をもつ李女史は、韓国で毎年行う日本酒セミナーで、日本酒の良さをPRしていますが、2004年に4億円であった日本酒の韓国での消費が2010年には、なんと、161億円にまで伸びたそうです。月桂冠や新潟の越乃寒梅が人気ブランドで、久保田万寿720mlが一流ホテルに於いて3万円で販売されているとのこと。

